2021 年 4 月～6 月の活動報告

学習

シュタイナー教育（レムニスケート線描、水彩画、木の積み木、トムテクト）

芸術活動

シュタイナー教育の色の重なり（クレヨン、水彩画）

バイオリンの練習　弦の響きに治療効果をみます。

モンテッソーリ教育

工作　得意な分野で集中

将棋　思考力と対人関係を身に付けます

父の日のプレゼントのための陶芸（4 月末から 5 月）

秘密基地づくり　　ファンタジーの世界に没入します

石窯作り

生け花

公園に散歩に行った際に花を摘みます。

料理（ミルクレープ作り、梅ジャムパンケーキ作り、瓦焼きそば）

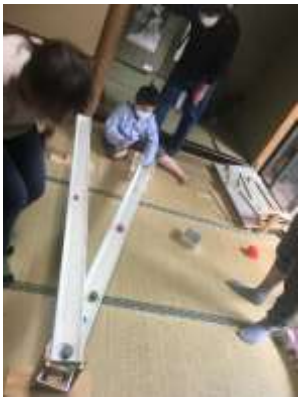
後片付け（お皿洗い）　モモではおやつの後にそれぞれ自分のお皿やスプーンを洗います

化石採掘

芦屋にある新生代第 3 期の地層から巻き貝の化石や生き物の通った痕跡化石を発掘しました。骨のような化石も見つけ、いのちのたび博物館の御前明洋学芸員さんに詳しく教えていただきました。

木工遊具　湯元桂二先生来所（5 月）

児童文化科学館で「木のおもちゃショー」や「コロコロ装置を作り親子講座」などを開催する湯元桂二先生がモモに来て下さいました。子どもたちも先生の作った木のおもちゃを操作し、大喜びでした。



誕生日のお話

モモでは一人ひとりの誕生日をお祝いします。大切な命がお母さんとお父さんとのもとに生まれてきたことを人形劇で伝え、手作りケーキでお祝いしました。

フェンシング、テーブルテニス（卓球）

シュタイナー教育では、自閉症の児童に対して、相手との相互作用体験を築くスポーツや音楽や労作等を重視します。スポーツではフェンシングやテニスのように相手との間合いをはかり、ルールに則り、相互に働きかける動きを重視します。対人関係が苦手な児童もとても楽しそうに取り組みます。

レゴブロック

　自閉症児や不登校児は対人関係を築くのが苦手ですが、物作りや物を媒介とした交流にはスムーズに取り組むことができます。まずは興味を引き、活動が楽しいという体験をきっかけに対人的な交流を深めていきます。数人で街作りをしています。

養蜂活動

3 月末 4 月にかけて行われる分蜂に向けて分蜂板を作って設置します。

4月初めに分蜂が起こりました。手作りの網で捕獲し、用意した新しい巣箱に移しました。

ビニールハウス作り

田代の畑に、ミツバチの冬の蜜源を確保するためビニールハウスを作りました。理事の関係者のサポートで作り上げることができました。

モモの庭の梅の実採り（6 月）

私たちの施設モモの庭には梅の木の古木があり、毎年たわわに梅の実をつけます。子どもたちと梅の実を採り、ヘタを取り除き、梅シロップ、梅ジャム、梅干し作りを行います。

モモの畑で麦刈りの練習（5 月初旬）

モモの花壇に植えた麦を鎌で刈り取る練習をしました。つぎはいよいよモモの畑での刈り取り作業です。

モモの花壇に田を作る（5 月初旬）

今年は借りている猪倉の畑に稲を植えるための田を作りました。田植えの練習と稲の観察をするために、モモの庭の一角に田を作りました。

モモの畑で田植え

モモの田で田植えのコツを学びます。

猪倉の畑に田を作る（5 月末から 6 月初　　旬）

粘土質で畑に向かない猪倉の畑の一角に田を作りました。畑を深く耕し、トンボでならし、そこに川からパイプを通し、水を引きます。５０ｍ くらいの長さのパイプはいつも応援してくれる隣の畑の所有者である江口さんに貸していただきました。

猪倉の畑で田植え（6 月初旬）

田植え作業のあとは川遊び

田代の畑で堆肥作り（羊毛、マメ科植物、牛糞等を混ぜる）

秋の収穫以降に豊かな土壌を復活させるため、畑での植物の成長に必要な窒素・リン酸・カリウムを含む土作りをします。その３要素を含む羊毛や、窒素を含むマメ科の雑草や、堆肥となる牛糞などを混ぜてビニールシートに包み、３ヶ月くらいかけて発酵させます。

田代の畑で麦刈り

昨年の 11 月に種を播き、何度か麦踏みをし、4 月には緑色の穂がつき、5 月末には黄金色に成長した麦を刈り取りました。

モモの庭で脱穀

　モモの庭で、千歯扱きと足踏み脱穀機を用いて麦の脱穀をします。先生が道具や機械の使い方を教え、ワクワクして待っていた子どもたちもいよいよ初めての脱穀体験です。

モモの庭で唐箕を使った麦の実取り

唐箕という機械の風車のハンドルを手で回し、麦のからを飛ばし、実を袋に落とします。

田代の畑で芋の茎を植える　①麦わらを焼く、②耕運、③マルチング（雑草・害虫・乾燥等の防止のためビニールシートを張る）

麦刈りをした後に、新しい畝を作ります。そこにサツマイモの茎と大豆を植えます。

畑作の後は川遊び

畑作の後、田代の清流で魚釣りや魚すくいをしました。アカハライモリもたくさん取り、観察・飼育用に数匹持ち帰りました。

【活動の意図】

私たちは、シュタイナー教育を通して、子どもの一人ひとりの「らしさ（個性）」を引き出すことを目標としています。「らしさ」というのは、その子の心の一番奥底から出てくる「こうしたい」「こうなりたい」という「意志」に由来します。

そうした心の声を聞くためには、まず教師自身の「謙虚さ」が必要となります。偏った見方をしたり、自分の小さな経験が絶対だと思い込み強制したりする大人に対して、子どもは表面上従うことがあっても、真に心を開くことはありません。教師は、「自分の不完全さ」を理解したうえで、つねに謙虚に内省に努める必要があります。そう努める中で、一人ひとりが取り組むべき課題やその子にふさわしい教育方法が見えきます。

また、頭に偏りすぎた今日の教育に対して、ここモモでは、心（思考・感情・意志）と体の全体がともに働く教育を進めています。それによって、身体で感じ、身体を通して考えることが可能となり、頭と心の分断によって苦悩する子どもたちを救うことができます。しかも、この活動は自然の営みを自分の生と結びつけて感じとれる仕組みとなっていて、環境から分離・孤立しがちな子どもたちが、この地にしっかりと自分の足で立ち、かかわることができるよう促します。

様々な苦悩や困難をかかえてモモに来た子どもたちが、モモでの生活を通して、みな快活さや「自分らしさ」を取り戻していっているのは、スタッフがこの教育方針を受け入れ、日々、自己修養に努めてくれているお陰だと思っています。

私たちは、今後も「敬うこと」「感動すること」「尽くすこと」をモットーに、教育活動を通して自己の課題と向き合い、子どもとともに成長していきたいと願っています。

NPO 法人シュタイナー＆モンテッソーリ・アカデミー　　代表理事　　衛藤吉則